

傍聴席の声

市議会一般質問を傍聴した方々の声を掲載します。

6月定例会では市役所研修の一環として新人職員の方々が多く傍聴されていたことから、3名の方々の感想をご紹介します。

総務部税務課 主事 おおいし ひゅうが
大石日向

この度の議会見学を通じて、議員の方々や門脇市長が様々な視点から仙北市の課題を議論しているところを傍聴し、自分の視野の狭さを感じた。

私は仙北市の課題といえば人口減少やコロナウイルスによる不況の中の観光への取り組みなどが真っ先に思いつく。しかし、議員の方々は市民の安全のことに対しての質問や提案が多く挙げられた。我々の仕事は、市民のことを第一に考慮しなければならないことに気付かされた。

また、門脇市長の「定住の循環」の考えを拝聴し、加速していく人口減少に歯止めをかけるため、仙北市の人口減少についてより深く考えたいと改めて感じた。

研修を終え、市職員として仙北市の発展のため、様々なところに注目していかなければならないと思った。これからの業務ではより市民の声に耳を傾けていきたい。

建設部上下水道課 主事 たかはし ひとみ
高橋 眸

議場が田沢湖庁舎内にあり、とても身近な存在であることに驚きました。また、議会中はタブレットで資料を読んでおり、議会もIT化が進んでいる事にも驚きました。一般質問の答弁は口答で行われ、数字などは分かりにくく感じました。資料をタブレットで表示できるならば、傍聴席にもモニターなどを設置し、具体的な数字や表などの資料を表示できれば一般の傍聴者にもとても分かりやすくなるのではないかと思います。

一般質問の答弁を聞いて、改めて市役所の仕事は多岐にわたっていることを実感しました。議会を通して市の事業が明らかになり、それに対する意見が出ることで、事業が良い方向に進んでいく様子が見学でき、良い経験だったと思います。さらに、市役所の仕事が還元されている事を知る機会にもなりました。今後、議会が開催される時には議事内容等に関心を持つようにしたいと思います。

総務部地方創生・総合戦略室 主査 いとう みつあき
伊藤 潤秋

令和3年度第3回仙北市議会定例会の一般質問傍聴研修では、市施策の進行状況や将来に対する方針等の市政全般に係る一般質問について、議会中継の動画では分からない、市議会議員と市長等との間で行われる質疑応答の様子を議場で間近に見ることができた。

各議員の質問は、我々の身近な事項であり、市職員として、また、一市民として興味深かった。内容は、新型コロナウイルス感染症、伝統文化の保存・継承、橋梁等のインフラ整備、交通安全対策、就学前教育と小学校教育の連携強化等と多岐にわたっており、質問される市議会議員は、関連法規や先行事例の調査等、十分に準備された上で議会に臨んでいるのが分かった。我々市職員が行っている業務が、市長等の回答に影響するという目を当たりにして、改めて日々の取り組みの大切さを認識することができた。